

正門前に集まった私たちをにこやかに迎えてくださったのは、三溪園ボランティアガイドのHさん。原三溪をととても尊敬していて三溪の研究をしていらっしゃるとのこと。まず、鶴翔閣へ。三溪が、家族の住まいとして建てたもので、中の見学も可能な施設ですが、この日は利用している団体があって外からの見学になりました。客間棟があって来客のための宿泊や、画家の制作の場としてつかわれ、ここで、横山大観、下村観山、前田青頓などが創作を行いました。Hさんのお話では、三溪の庇護がなければ、多くの名作はうまれなかったのではないかとのことでした。また、この日は、「紅葉の古建築公開」(重要文化財 天授院・旧天瑞寺寿覆堂・旧東慶寺仏殿)の時期にあたり、ふだん公開していないところを見学できました。そしてわたしたちが、ICであることをご存知のHさんは、建物のみどころなどもガイドしてくださいました。



旧天瑞寺寿覆堂

扉の彫刻(鳥の足を持つ天女)



内部



臨春閣

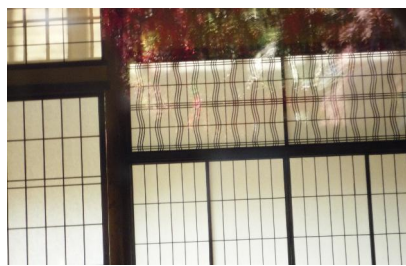
傘をかたどった飾り

臨春閣



楽器をモチーフにした欄間

臨春閣



桃太郎をモチーフに鬼と桃

海岸門



聴秋閣



遊歩道から聴秋閣をのぞむ

聴秋閣は窓が開けられており、三溪がすわって客をむかえた場所など、内部を見ることができました。

また、この奥の遊歩道も公開されていて、いつもは見ることができない方向から見ると、聴秋閣が四角形でないこともわかります。

天授院からの眺めは、横浜市内とは思えないような山深い景色でした。三溪が自分の故郷をなつかしんで植物の配置などを考えて造園したそうです。また、蓮華院の辺りの庭は紅葉の赤に対して、銀杏の黄色一色で別世界が広がっていました。

三溪園には、移築された建物がたくさんありますが、そのほとんどが移築されなければ残っていなかったらうとのことでした。

新緑の古建築公開 (重要文化財 臨春閣・蓮華院)

201年 4月29日(金・祝)~ 5月5日(木・祝)開催予定です